

熊本県酪農青壮年女性レクリエーション大会を開催！ ●○●

主催：熊本県酪農青壮年部協議会、熊本県酪農女性部協議会、らくのうマザーズ

日時：令和4年11月16日

場所：益城町総合体育館メインアリーナ

今大会が初開催となる熊本県酪農青壮年女性レクリエーション大会が上記の日程で開催されました。今回の競技であった「ボッチャ」はパラリンピックで金メダルを獲得し、話題となったパラスポーツのひとつで近年人気急上昇しています。県内各地より50チーム151名の酪農家が集まり、皆様はじめてとは思えない!?熱戦が繰り広げられました。また、小さな赤ちゃんをおんぶしながら…松葉杖をつきながら…でも競技していただき、参加者の幅も広がった大会に感じました。途中、可愛い審判!?も登場し、にぎやかな大会となりました。

見事混戦を制し、優勝を手にしたのは玉酪Bチーム（玉名酪農協）でした。なお、その他の結果は下記のとおりとなっております。

両協議会主催のスポーツ大会は3年ぶりとなりました。多くのご参加をいただき開催できたこと、非常に嬉しく思います。参加された皆様、おつかれさまでした。

試合結果

順位	チーム名（組合名）
優勝	玉酪B (玉名酪農協)
準優勝	今さらキャッツアイ (熊本宇城農協)
3位	ドリーム合志 (熊本酪農協)

順位	チーム名（組合名）
コンソレーション 優勝	菊池B (熊本酪農協)
コンソレーション 準優勝	ちいかわーず (熊本市農協)



優勝：玉酪B（玉名酪農協）



準優勝：今さらキャッツアイ（熊本宇城農協）



3位：ドリーム合志（熊本酪農協）

MOTHER'S



コンソレーション優勝：菊池B（熊本酪農協）



コンソレーション準優勝：ちいかわーず（熊本市農協）



COLUMN —コラム—

「今、出来ることを。曇りのち晴れ！」

秋深まり、師走12月を目前に、日本の経済はというと、3つの強い逆風が吹いているといわれています。一つはコロナ感染再拡大、二つ目は物価高、三つ目は海外景気情勢の悪化などいずれも長期化していることです。

お隣の中国では「ゼロコロナ」を掲げ、厳格な規制に反論の声も沸くなど、世界的に見ると何時までもマスクが外せない日本もどうなのかといった意見もあるようです。

一方で、国内では第八波がインフルエンザと複合して、感染拡大しつつあるのも事実です。

二つ目の物価高ですが、過去を遡ればインフレは必ず燃料高が起因しています。しかし、今回は円安も大きな要因となっています。

三つ目の海外景気情勢の悪化は、一つにロシアによるウクライナ侵攻の長期化やコロナ感染により、まさに危機に危機が重なり、各国の経済活動を大きく締め付けている状況となっています。

現在、社会経済情勢のみならず酪農業界でも大きな逆風の中、心配なのは需給問題（乳製品の在庫対策）と、生産現場では、輸入飼料、燃油、肥料の急激な上昇と高止まりに个体販売等の副産物収入の低下が加わり、国・県や本会の各種支援対策に取り組むも過去の経験を上回る酪農経営悪化の状況にあることです。

ある農家の話に耳を傾けると、「以前は売り上げに対して3割程度の利益が残っていたのに、今は1割程度となっており、定期の支払いのためには預貯金を取り崩すか繋ぎ資金の借入れをしなければならないと。」勿論、経営体により損益のバランスが何とか保たれている経営もあれば、そうではない経営が存在するのも事実です。

年末年始を目前にJミルクは生乳生産目標を、11月から来年3月まで前年比97.5%、約2万6千

トンの生産抑制が必要と呼び掛けています。現在、九州の生乳生産量は前年比96%を切った状況

にありますので、生産抑制に関しては問題意識としては薄いかもしれませんが、国内全体で取り組まなければならないのも事実です。そして、需給調整の目途が着いた時点で更なる乳価値上げを乳業メーカーに求める交渉が必須です。

先般、令和5年度の畜産物価格制度についての協議を目前に、自民党議員で構成される畜産・酪農対策委員会が熊本を会場として現地視察と意見交換が行われました。

その中で、本県は畜安改正法の生乳流通の自由化がもたらした需給調整の混乱や酪農経営の悪化について検証し、統制の取れた需給調整に向けた制度の見直しを筆頭に、配合飼料価格安定基金制度の安定的な運営に向けた抜本的制度改革、加工原料乳生産者補給金の値上げ、さらには酪農経営安定制度の構築について強く要請し、伊藤対策委員長を中心に各委員の答弁も前向きで、畜産物の食料安保の観点からも議論され中身の濃い意見交換となったことが強く印象に残りました。

生乳生産に於いて、今は生産抑制の時期にありますが、近い将来需要は必ず戻ります。今は我慢の時です。生産コストアップにどう対処していくのか、現状の改善（飼料の見直し、个体能力のアップ、繁殖成績のアップ、副産物生産、自給飼料生産性アップ等）の計画的な取り組みと併せ飼養管理に向けた技術力の向上が求められています。

最後に、何度も申し上げます。需給緩和の暗雲は必ず晴れます。皆さんの安心安全で風味豊かなおいしい牛乳を求め、11月以降も本会の牛乳は売られています。



らくのうマザーズ 生産本部長
南部 顯弘

毎回大盛況！「ハッピーミルクフェスタ」熊本県にて開催！

主催：九州生乳販売農業協同組合連合会

例年、九州各県の商業施設や各種イベントで実施されている「ハッピーミルクフェスタ」が今回、11月6日（日）に上益城郡嘉島町にある「イオンモール熊本（クレア）」で開催されました。本県酪農青壮年部協議会の中村委員長、女性部協議会の富田会長を含む九州酪農青年女性会議の各県委員が理解醸成活動を行いました。フリーアナウンサー村上美香さんによるステージイベントでは、九州生乳販連の中村会長や中村委員長とのトークショー、一般来場者参加型の酪農クイズ大会等が実施され、酪農に関する情報・豆知識等を来場者へ披露されました。特に、中村会長より「日々、安全・安心でおいしい生乳の生産に取り組んでいきますので、牛乳を飲んで応援していただければ幸いです」と牛乳の消費拡大をアピールされ、中村委員長からも「子供たちから大人の方まで楽しそうに体験している姿だけでなく、牛乳のおかげで大きく育ちましたなどの声をかけてもらうことで我々生産者のモチベーションが上がります」など、感謝の気持ちを伝えられていました。

その他にも、各委員が来場者と模擬搾乳・哺乳体験、飼料の展示会場を通じて触れ合い、また、九州各県のL1牛乳・理解醸成3,000セットの配布が行われました。老若男女問わず多くの方々に喜んでいただき、今回も盛況なイベントとなりました。



去る令和4年11月24日、熊本県乳牛改良同志会は、牛乳の消費拡大を目的とした「牛乳消費推進活動」を実施しました。本活動は、需給緩和の中同志会役員自らが、牛乳消費拡大の運動として何かできないかとの思いから昨年に引き続き実施されたものです。

熊本市の下通りCOCOSA付近でカフェオレ・大阿蘇牛乳を合計約1,000本（500セット）無料配布しました。道行く消費者には大変喜んでいただけましたが、酪農業界の窮状や、需給緩和などについて知らなかったとの声もあり、情報発信や理解醸成の重要性を再確認した活動となりました。

